

授業科目名	生涯学習概論	担当教員名	小林 建一
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博)必修科目 (教職)選択科目	授業形態	講義 (集中)
配当年次・学期	1・2・3年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の意味を適切に捉え、その学びを継続するにはどのような支援・方法があるのかなど、生涯学習の基礎を理解する。</li> <li>・わが国および地域の生涯学習とその支援の現状分析を通じて、自らの生涯学習について省察し、生涯にわたる学習への意欲と関心を持つ。</li> <li>・教職や学芸員等の志望者は、資格の持つ現代的な役割や課題について理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>生涯学習に関わる基本的理解ができるように、生涯学習の概念や意義、必要性を歴史的、政策的、制度的な面から再考するとともに、わが国における生涯学習の諸相の実態把握をふまえ今後の課題について考察し、具体的な問題関心にもとづいて、発展的な学習に取り組むことができるよう方向づける。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回 生涯学習の概念・歴史と現代的意義  第2回 生涯学習と生涯発達—ライフサイクルと学習—  第3回 生涯学習の内容—学習ニーズと学習課題—  第4回 生涯学習の方法—学習方法のタイポロジー—  第5回 生涯学習と家庭教育  第6回 生涯学習と学校教育  第7回 生涯学習と社会教育・成人教育  第8回 生涯学習・社会教育と法  第9回 生涯学習と社会教育施設（1）—公民館、図書館—  第10回 生涯学習と社会教育施設（2）—博物館—  第11回 生涯学習と社会教育施設（3）—青少年・女性施設、その他学習関連施設—  第12回 生涯学習の支援—専門職の役割—  第13回 生涯学習の現代的課題（1）— NPO、ボランティア活動—  第14回 生涯学習の現代的課題（2）—「グローバル」な活動—  第15回 まとめ、レポート課題の提示</p>			
<b>履修上の注意</b> <p>事前にテキストの該当頁又は配布資料を読んでおくこと。授業は予習前提で進める。  第1回 pp.2-5,14-19,200-201. 第2回 pp.22-29. 第3回 pp.42-69. 第4回 pp.72-91. 第5回 pp.8-9. 第6回 pp.10-11. 第7回 pp.12-13. 第8回 pp.92-95,102-107. 第9回 pp.156-157,160-161,164-165. 第10回 pp.166-167 .第11回 pp.162-163,168-173. 第12回 pp.144-151,154-155. 第13回 pp.120-121,152-153. 第14回配布資料</p>			
<b>テキスト</b> <p>香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習 改訂版』ミネルヴァ書房、2016</p>			
<b>参考書・参考資料等</b> <p>渡邊洋子編著『生涯学習概論—知識基盤社会で学ぶ・学びを支える—』ミネルヴァ書房、2014  関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習〔第2版〕』有斐閣、2013</p>			
<b>学生に対する評価</b> <p>授業内課題（60%）、レポート（30%）、授業参加意欲・態度（10%）で評価する。</p>			

授業科目名	博物館概論	担当教員名	志邨 匠子
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博)必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2・3年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 博物館に関する基礎的な知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的とする。さらに歴史的考察をふまえて、現在博物館が抱えている問題点や課題に自覚的になり、今後の博物館のあり方について考えることを目標とする。			
<b>授業の概要</b> まず博物館学の目的や方法、その歴史について概説し、博物館の定義、種類、目的、機能、博物館関係法令、学芸員の役割等について講ずる。さらに西洋における博物館の成立、日本近代におけるその導入と歴史的展開をみていく。最後に現在の博物館の問題点を指摘し、今後の博物館のあり方について考察する。			
<b>授業計画</b> 第1回 博物館学の目的・方法・構成，歴史 第2回 博物館の定義，種類 第3回 博物館の目的，機能 第4回 博物館関係法令 ー博物館法，文化財保護法他 第5回 学芸員の役割と実態 第6回 博物館の歴史ーコレクションのはじまり 第7回 博物館の歴史（西洋1） ーフランス1 第8回 博物館の歴史（西洋1） ーフランス2 第9回 博物館の歴史（西洋2） ーイギリス 第10回 博物館の歴史（西洋3） ーアメリカ 第11回 博物館の歴史（日本1） ー湯島聖堂博覧会 第12回 博物館の歴史（日本2） ー東京国立博物館 第13回 博物館の歴史（日本3） ー美術館 第14回 博物館の現状（諸外国） 第15回 博物館の現状（日本）および総括 定期試験			
<b>履修上の注意</b> 授業時間外に、積極的に近隣の美術館・博物館を訪れること。			
<b>テキスト</b> 使用しない。（適宜、授業内でプリントを配布する）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 定期試験により評価する。			

授業科目名	博物館教育論	担当教員名	志邨 匠子、会田 大也、 米山 茉未
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博)必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2・3年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 博物館教育の基礎的な理論や知識を習得し、実践に関する能力を養うことを目的とする。 博物館教育の意義や理念について理解し、歴史的な変遷を考察すること、さらに博物館教育の実態を把握することを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 博物館における教育活動の基礎的な知識や理論を養うために、博物館教育の意義と理念、日本と諸外国の博物館教育の歴史的変遷について概説をおこなう。その上で、博物館における学びや博物館教育の実態をみていく。またワークショップや鑑賞ガイドといった教育プログラムの実例を通じて、グループワークにより実践的な考察をおこなう。			
<b>授業計画</b> 第1回 博物館教育の理念と意義、 第2回 博物館教育の歴史的変遷 第3回 博物館展示と来館者 (1) 第4回 博物館展示と来館者 (2) 第5回 知識伝達、ものの道理の理解、課題発見 第6回 理念とモノの間 第7回 思考することと創ること 第8回 自分で語らず、モノを紹介する (1) 第9回 自分で語らず、モノを紹介する (2) 第10回 自分で語らず、モノを紹介する (3) 第11回 自分で語らず、モノを紹介する (4) 第12回 教育プログラムの考察 (1) ー千秋美術館 第13回 教育プログラムの考察 (2) ー千秋美術館 第14回 教育プログラムの考察 (3) ー千秋美術館 第15回 教育プログラムの考察 (4) ー千秋美術館			
<b>履修上の注意</b> 授業時間外に、積極的に近隣の美術館・博物館を訪れること。			
<b>テキスト</b> 使用しない。(適宜、授業内でプリントを配布する)			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取組姿勢と課題により評価する。			

授業科目名	博物館資料論	担当教員名	志邨 匠子、井上 豪
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博) 必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3・4年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 博物館資料の収集や整理等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得すること、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。さらに実例に即し、博物館資料をめぐる諸問題について考えることを目標とする。			
<b>授業の概要</b> まず博物館資料の概念について概説し、博物館資料の収集、分類・整理、技法材料、調査研究活動について解説する。さらにこれまで開催された展覧会において、問題となった作品やテーマを取り上げ、博物館資料をめぐる様々な問題について考察する。			
<b>授業計画</b> 第1回 博物館資料の概念 第2回 博物館資料の収集 (1) 理念, 倫理, コレクションの方針 第3回 博物館資料の収集 (2) 方法 (記録, 法規, 受入手続き, 登録) 第4回 博物館資料の収集 (3) 実例 第5回 文化財について 第6回 博物館資料の分類・整理 (1) 調査 第7回 博物館資料の分類・整理 (2) 採寸, 記録 第8回 博物館資料の技法材料 (1) 彫刻 第9回 博物館資料の技法材料 (2) 彫刻 第10回 博物館資料の技法材料 (3) 絵画 第11回 博物館における調査研究活動 (1) 作家研究 第12回 博物館における調査研究活動 (2) 作品研究 第13回 博物館における調査研究活動 (3) 作品のディスクリプション 第14回 博物館資料をめぐる諸問題 (1) 第15回 博物館資料をめぐる諸問題 (2) 定期試験			
<b>履修上の注意</b> 授業時間外に、積極的に近隣の美術館・博物館を訪れること。			
<b>テキスト</b> 使用しない。(適宜、授業内でプリントを配布する)			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 試験および授業内の課題により評価する。			

授業科目名	博物館資料保存論	担当教員名	神庭 信幸
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博) 必修科目	授業形態	講義 (集中)
配当年次・学期	2・3・4年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 博物館における資料の保全、展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目的とする。あわせて日本の伝統的な保存方法やその歴史を学び、海外の博物館での方法や最近の取り組みなども参考にしながら、保存についての知識を深める。			
<b>授業の概要</b> まず博物館における資料保存の意義について概説し、資料の保全についての基礎的な知識について解説する。次に、温湿度、光、振動、大気、有害生物といった資料の保存環境、そして修理について対症修理や本格修理などを事例にもとづいて解説する。また、保存活動の公開や教育普及についても講ずる。最後に環境保護と博物館の役割について考察する。			
<b>授業計画</b> 第1回 資料保存の意義(1)－目的と法規 第2回 資料保存の意義(2)－倫理規定と社会的責任 第3回 環境の状態診断(1) 第4回 環境の状態診断(2) 第5回 資料の状態診断 第6回 予防保存(1) 環境 第7回 予防保存(2) 輸送 第8回 予防保存(3) 収納 第9回 修理保存(1) 事前調査と報告書 第10回 修理保存(2) 対症修理と本格修理 第11回 修理保存(3) 本格修理事例 第12回 公開と教育 第13回 自然災害への対応 第14回 エコミュージアム 第15回 地球環境保護と博物館 定期試験あるいはレポート			
<b>履修上の注意</b> 予習として教科書を読んでおくこと			
<b>テキスト</b> 神庭信幸「博物館資料の臨床保存学」武蔵野美術大学出版局			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取組姿勢(30%)、試験またはレポート(70%)により評価する。			

授業科目名	博物館情報・メディア論	担当教員名	天野 一夫
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博) 必修科目	授業形態	講義 (集中)
配当年次・学期	2・3・4年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 博物館における情報の意義と活用方法、及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。また、作品と情報との関係、情報の収集・蓄積・発信の場としての美術館・博物館、あるいは広場(フォーラム)化した美術館・博物館を考える場とする。			
<b>授業の概要</b> 美術館は美術作品を見る場である。しかしながら今日、社会的に要請されていることはそれだけでは無い。ここでは情報の収集・蓄積・発信の場としての美術館、作品と情報についての基本的な知識と問題意識を持ちながら、情報化社会の中でどのように作品が、作品鑑賞が変容しているのかを現状と問題点も含め考える場にもしたい。特にここでは美術館を中心に考えることで、博物館との異なりも指摘していきたい。			
<b>授業計画</b> 第1回 現代の美術館・博物館とは? 博物館における情報・メディアの意義 社会の中で・メディアとしての美術館・博物館へ 第2回 情報の収集・蓄積・発信 第3回 作品と情報 データベース化 美術館と知的財産権との問題—個人情報・権利処理 第4回 新たなドキュメンテーション デジタルアーカイブ 第5回 広報としての情報の発信 情報管理と情報公開 インターネットの活用 第6回 視聴覚メディアとは? 理論と歴史、その展示と博物館 第7回 展示方法としての映像 第8回 秋田県立美術館等への見学 (情報的側面から) 第9回 秋田県立美術館等への見学 (視聴覚的側面から) 第10回 秋田県立美術館等への見学 (展示的側面から) 第11回 見学後の討議 博物館との差異 第12回 映像展示の多様性 (現代美術の中から) 第13回 映像展示の多様性 (美術館展示の中で) 第14回 デジタルミュージアム 第15回 再び現代の美術館・博物館とは? 広場(フォーラム)としての美術館 (定期試験)			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 特に無し 講義中に適宜配布。			
<b>参考書・参考資料等</b> 特に無し			
<b>学生に対する評価</b> 試験あるいはレポート試験 80% 授業態度 20%			

授業科目名	博物館経営論	担当教員名	天野 一夫
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博) 必修科目	授業形態	講義 (集中)
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的知識・能力を養う。また、収集・展覧会の実施の仕方をはじめとした、現実的な予算化・企業との関係など現代の博物館の現状と問題点を知る。ここでは特に美術館を中心に論じる。			
<b>授業の概要</b>			
博物館・美術館の成立、特色をアメリカ、ヨーロッパなどと比較し、また日本独自の困難さと活動にも言及する。また収集・展示活動の実際的な動きや、ボランティア、広報等さまざまな周辺業務等もまぜて、現実的な現代の美術館の経営的現状と問題点を論じる。その上で、実際に見学・実習も行い、少しでも対社会的な対応を経験してその意識を持たせる。			
<b>博物館の経営基盤</b>			
<b>授業計画</b>			
第1回	美術館とは何か? 美術館・博物館の歴史から アメリカ型、ヨーロッパ		
第2回	日本の経営システムの変化 国立・公立・私立 財団法人 指定管理者制 税制 民間企業との関係		
第3回	美術館で働く人々 学芸員 館長 他		
第4回	ボランティア		
第5回	事業の進め方 予算化		
第6回	調査研究・展示・収集		
第7回	印刷・発行 パブリシティ		
第8回	地域社会の中で 社会的役割 美術館を作ること		
第9回	課題発表1		
第10回	課題発表2		
第11回	課題発表3		
第12回	課題発表4		
第13回	現代の美術館を巡る社会的な状況の変化 危機管理		
第14回	評価		
第15回	マネジメント サービス施設として 公共施設として		
履修上の注意	特に無し		
テキスト	講義中に適宜配布。		
参考書・参考資料等	特に無し		
学生に対する評価	試験あるいは発表・レポート試験 80% 授業態度 20%		

授業科目名	博物館展示論	担当教員名	服部 浩之、村田 梨沙
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博) 必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 現代芸術の展示の現場は美術館など博物館施設にとどまらず、街中の空店舗や屋外まで多様な空間で実践されている。展示の意義や歴史を概観し、展覧会と教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、主に現代芸術の展示機能に関する基礎的能力を養うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 博物館展示という概念とその成立過程を概観する。また過去の展覧会を題材にしつつ、展示における社会的、政治的問題を考察する。展示の現場の詳細な具体例を複数紹介し、特別講師による授業や、加害見学も含めて、現代の展示の方法論を具体的に考察する。			
<b>授業計画</b> <b>第1回 イン트로ダクション（展示の歴史や概要について）</b> 展示概念の成立背景、博物館成立以前から、博覧会の隆盛、戦後日本の博物館法成立までを概観する。 <b>第2～3回 博物館・美術館における展示の歴史と実践</b> 近代美術館制度やホワイトキューブの展示空間の成立以降実践されてきた展示を概観する。 <b>第4～5回 ホワイトキューブ外での展示の歴史と実践</b> ランドアートなど自然環境へと介入するかたちの作品から、公共空間でのパフォーマンス、反芸術的動向や現代のアートプロジェクトまで、美術館や展示専従の空間の外へ出た表現について紹介する。 <b>第6～7回 展示と検閲について</b> 政治の諸問題、性表現などの検閲事例から、表現の自由と検閲や規制の関係について思考する。 <b>第8～9回 アーティストによる展示実践</b> 特別講師によるアーティストがどのような思考のもと作品を制作し展示を実現するかの実践紹介。 <b>第10～12回 展示の現場見学</b> 東北近県の現代美術展を訪問し、現地の学芸員などに展示の成立までのプロセスを聞く。 <b>第13～14回 千秋美術館における展示の実践</b> 先週美術館学芸員による授業。美術館の収蔵品や、企画展など展示の構成を学ぶ。 <b>第15回 総括とレポート（*第6～14回までの授業の構成順は、適宜入れ替わる可能性あり。）</b>			
<b>履修上の注意</b> 土日などイレギュラーな日程での開催あり。観覧料など自己負担の経費が発生する。			
<b>テキスト</b> 使用しない。（適宜、授業内でプリントを配布する）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業態度 50%、課題 50%			

授業科目名	博物館実習	担当教員名	志邨 匠子、井上 豪 米山 茉未、村田 梨沙
授業科目区分	博物館学芸員課程科目		
履修区分	(博) 必修科目	授業形態	実習 (集中)
配当年次・学期	3・4年次通年	単位数	3単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 学内実習及び館園実習において、学芸員の実務を体験し実践的能力を養うことを目的とする。学内実習では、実際に資料に触れ、その扱いに慣れること、さらに博物館を見学することで、実態を理解することを目標とする。館園実習では、各自、一定期間、博物館において実務を体験する。			
<b>授業の概要</b> 博物館実習は、学内実習（実務実習および見学実習）と館園実習で構成されている。実務実習では、基本的な資料の扱い方、展示、記録としての撮影の技術、梱包の基礎などを、実物や複製を用いて学ぶ。また、グループワークにより、仮想の展覧会を企画し、チラシや冊子を作成する。見学実習では、博物館・美術館（4館）を見学し、コレクションの方針や、収蔵方法、展示等について、学芸員からレクチャーを受ける。館園実習では、各自、実習館の指導に従う。			
<b>授業計画</b> <b>【学内実習】</b> 第1回 事前指導 第2～4回 博物館見学（学外） 第1回 第5～6回 資料の取り扱いと展示 第7～9回 博物館見学（学外） 第2回 第10～11回 資料の撮影 第12～14回 博物館見学（学外） 第3回 第15～17回 展覧会の企画（1） 展示計画 第18～21回 展覧会の企画（2） チラシ等の作成 第22～23回 展覧会の企画（3） プレゼンテーション 第24～26回 博物館見学（学外） 第4回 第27～28回 資料の梱包 第29回 館園実習の事前指導 第30回 事後指導  <b>【館園実習】</b> 30時間程度			
<b>履修上の注意</b> 授業時間外に、積極的に近隣の美術館・博物館を訪れること。			
<b>テキスト</b> 使用しない。（適宜、授業内でプリントを配布する）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で適宜紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業（実習）への取組姿勢と授業内の課題により評価する。			